

オオセツカ *Locustella pryeri* (Seebohm)

【選定理由】

日本に分布する亜種の繁殖地は関東以北の本州にあり、極めて限られていて国の絶滅危惧 I B 類に指定されている。県内の生息地は沿岸部の干拓地や埋立地、河川敷などに広がるヨシ原で、冬期や渡りの季節に確認されているが、数は極めて少ない。以前の愛知県はこの種の越冬地として、あるいは繁殖地にもなり得る環境を有していたが、県内での繁殖記録はない。現在の県内には越冬が可能な環境もほとんど消失しており、近年越冬や通過をする個体の記録もごく希になっている。

【形態】

全長 13cm。雌雄同色で、上面は茶褐色、背に黒褐色の太い縦斑がある。頭上にも細かい縦斑がある。眉斑は白くて細い。尾は長く、くさび型で褐色。ヨシの茎などに、体を立て、尾を下げて止まる。



青森県, 2016年6月17日, 鈴木恒則 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

数少ない冬鳥として渡来しており、沿岸部のヨシ原などに生息する。

【国内の分布】

東北地方及び関東地方で繁殖するが局地的である。冬期には、本州中南部から四国でも記録がある。

【世界の分布】

ウスリー、中国東北部、日本で繁殖し、中国中部や国内で越冬する。ロシア、中国と日本に分布する2亜種が知られる。

【生息地の環境／生態的特性】

冬期に海岸近くの湿地や埋立地のヨシ原などに生息するが、草の中に潜行しているためほとんど目にする機会はない。繁殖地では、ジュークク、キュルルル・・・と囀りながら飛翔する。

【現在の生息状況／減少の要因】

広いヨシ原に生息し地鳴きの声が小さいために、標識調査等で捕獲されなければ野外で確認することはかなり困難な種である。県内の生息状況は必ずしも明らかではないが、本種の繁殖分布から、地理的には県内沿岸部は越冬地として適した位置にあると推測される。1980年代前半までは伊勢湾北部の干拓地や河口で、1990年には田原市東部の埋立地、2000年代までは矢作川河口周辺の埋立地、2018年には田原市4区の埋立地で記録がある。近年確認の機会がかなり希になっている要因は、県内の干拓地や埋立地から面積の広いヨシ原の環境が消失していることによる。

【保全上の留意点】

面積の広い湿地やヨシ原の環境は、愛知県に生息する絶滅危惧種を含む野鳥や、その他多くの生物には不可欠な環境である。これらの生物を絶滅から救うためには、埋立地や干拓地に存在する遊休地に、かつて愛知県に存在していた湿地の環境を復元することが急務である。

【特記事項】

ヨシの仲間には、オギなどよく似た種が多いが、野鳥が最も多く生息するのは、浅い水中や湿地に生えるヨシである。アシ(葦)はヨシの古い呼び名であり、「悪し」を「良し・吉」に変えたものである。

本種は、種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されている。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.217. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)